

# 環境パフォーマンス

## 環境負荷の全体像

理想科学は、製品の開発・設計、生産、ならびに販売・物流から、使用済み製品の回収・リユース・リサイクルまでの環境負荷の全体像を数値で把握することに取り組んでいます。生産活動における環境負荷を低減することと製品の使用時及び廃棄時の環境負荷を低減することが重要であると認識しています。

### 事業工程ごとのINPUT/OUTPUT (2005年度)

事業工程	INPUT	OUTPUT
 <b>開発・設計</b> 参照ページ:P19~22 製品開発におけるエネルギー使用量及びCO <sub>2</sub> 排出量などを表します。 【集計範囲】 開発技術センター(筑波事業所内)、K&I開発センター(若栗事業所)、S&A開発センター(徳栄ビル内)* *2006年4月に田町センタービルから移転しています。 ※但し、開発技術センターの水使用量、排水量は筑波事業所で管理しており、単独での数値把握ができないため、下記の「生産」の数値に含めています。	電力…………… 249万kWh LPG…………… 7t 水…………… 3,446m <sup>3</sup>	CO <sub>2</sub> …………… 962t-CO <sub>2</sub> 廃棄物排出量…………… 201t 内訳: マテリアルリサイクル量…………… 161t 最終処分量…………… 22t 排水量…………… 3,446m <sup>3</sup>
 <b>生産</b> 参照ページ:P23~26 2005年度に生産した主要製品への材料投入量とエネルギー使用量及びCO <sub>2</sub> 排出量、廃棄物排出量などを表します。 【集計範囲】 筑波事業所(開発技術センター除く)、宇部事業所、霞ヶ浦事業所	電力…………… 716万kWh LPG…………… 59t A重油…………… 192kℓ 水…………… 40,726m <sup>3</sup> 金属…………… 1,259t プラスチック…………… 1,840t ガラス…………… 36t 紙…………… 3,565t その他…………… 5,004t PRTR物質…………… 3t	CO <sub>2</sub> …………… 3,820t-CO <sub>2</sub> 廃棄物排出量…………… 1,250t 内訳: マテリアルリサイクル量…………… 989t 最終処分量…………… 35t 排水量…………… 28,085m <sup>3</sup> 蒸気放散量…………… 7,000t 製品…………… 15,445t PRTR物質の廃棄物への移動量…………… 0.04t PRTR物質排出量…………… 0.1t
 <b>販売</b> 参照ページ:P27~28 お客様への販売活動や保守サービス活動などに際して使用する車両が大気中へ排出するCO <sub>2</sub> 算出しています。 【集計範囲】 国内営業拠点及び子会社 *当社所有の営業車の燃料消費量及びCO <sub>2</sub> 排出量を示しています。輸送業者に委託している製品輸送にともなうデータは含みません。	ガソリン…………… 557kℓ	CO <sub>2</sub> *…………… 1292t-CO <sub>2</sub>
 <b>回収・リユース・リサイクル</b> 参照ページ:P29~30 使用済みとなった製品の回収量及びリユース、リサイクル量を表します。なお、回収した製品の有効利用を進めています。一部埋立て処分も行っています。 【集計範囲】 日本国内の使用済み製品を対象に集計 *焼却処理施設への廃棄物搬入量ではなく、埋立処分される焼却後の灰を最終(埋立)処分量としています。	回収量…………… 2280t	再生投入量…………… 481t ※回収後、再び生産工程に投入される量 マテリアルリサイクル量…………… 1,646t 最終処分量*…………… 153t

## 2004年度との比較

### INPUT

	2004	2005	2004年度比
電力(万kWh)	945	965	102%
LPG(t)	70	66	94%
水(m <sup>3</sup> )	46,290	44,172	95%
A重油(kℓ)	193	192	99%
金属(t)	1,016	1,259	124%
プラスチック(t)	1,818	1,840	101%
ガラス(t)	29	36	124%
紙(t)	3,508	3,565	102%
その他(t)	5,051	5,004	99%
PRTR物質(t)	3	3	100%
ガソリン(kℓ)	553	557	101%
Point 1 回収量(t)	1,650	2,280	138%

Point 1  
使用済み製品の回収・リサイクル活動に注力した結果、回収量及び再生投入量が大幅に増加しました。

### OUTPUT

	2004	2005	2004年度比
CO <sub>2</sub> (t-CO <sub>2</sub> )	5,989	6,074	101%
Point 2 廃棄物排出量(t)	1,185	1,451	122%
内訳:マテリアルリサイクル量(t)	1,942	2,796	144%
最終処分量(t)	412	210	51%
排水量(m <sup>3</sup> )	32,832	31,531	96%
製品(t)	16,000	15,445	97%
PRTR物質の廃棄物への移動量(t)	0.05	0.04	80%
PRTR物質排出量(t)	0.09	0.1	111%
Point 1 再生投入量(t)	396	481	121%

Point 2  
廃棄物の再資源化活動に注力した結果、事業所におけるマテリアルリサイクル量が増加し、また埋立量が減少しました。

#### ●CO<sub>2</sub>排出量の算定について

各エネルギー源からのCO<sub>2</sub>排出量算定には、以下の排出係数を用いています。

「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条(平成14年12月19日一部改正)」の排出係数

A重油:2.71kg-CO<sub>2</sub>/ℓ LPG:3kg-CO<sub>2</sub>/kg 電力:0.378kg-CO<sub>2</sub>/kWh ガソリン:2.32kg-CO<sub>2</sub>/ℓ

なお、本報告書に掲載した2004年度数値は、昨年発行した「環境報告書2005」において報告した2004年度数値と異なります。これは、昨年度と本年度で採用した排出係数が異なるためです

(※昨年度は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令:温室効果ガス排出量算定に関する検討会報告(平成12年9月)排出係数一覧の平成11年」を採用)。本報告書に掲載した数値は、上記の排出係数に従い、換算した数値です。

#### ●2004年度報告における報告数値の誤りについて

生産のINPUT

生産のINPUT項目(プラスチック、紙、その他)の、原材料のデータの集計において、単位変換や換算に誤りがありました。

PRTR物質の算出に誤りがありましたが、本報告書において、修正した数値を掲載しています。